

様式2 **令和元年度 清瀬市立清瀬第三小学校 学校評価表**

学校教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	
○よく考え やりぬく子ども(重点目標) ○やさしく 思いやりのある子ども ○明るく 元気な子ども		【育成を目指す資質・能力】 「協働問題解決能力」 ○基礎的な力(言語、数量、情報スキル) ○他者と共に考える力(協働問題解決力、メタ認知) ○他者と共生できる力(人間関係形成力) ○社会の中で実践する力(社会参画力、自律的活動力)	
目指す学校像(ビジョン)		【特色ある教育活動】 重点1 「協働問題解決能力」を中心に学力の向上を図る 重点2 他者と共生できる豊かな人間性を育む 重点3 「協働問題解決能力」を育む学校支援本部の活動を保障し、地域に開かれた学校づくりを推進する。	
【目指す学校像】 地域の風が行き交う学校 ◎「共に学んでよかった、明日も学びたい」といえる学校 【目指す児童・生徒像】 「他者と協働して主体的に問題を解決しようとする子ども」 ◎進んで学び合い、責任をもって教育活動を遂行する教師 ・児童一人一人と信頼関係を築き、個々のよさを引き出す教師 ・保護者や地域と連携する教師			
前年度までの学校経営上の成果と課題			

「誰にでも分かる授業づくり」の視点で三小スタンダードをもとに指導や教室環境の整備を充実させることができた。協働問題解決能力の向上をめざし、校内研究で算数の研究に取組み、一定の成果をあげることができた。サマースクールの開催など学校支援本部の支援による教育活動もさらに充実した。課題としては、校内研究での昨年の成果を基に、算数だけでなく他教科においても、これからの未来社会を生きる力、すなわち協働問題解決能力を育てていくことが挙げられる。そのためには学校支援本部をはじめとする保護者・地域や専門家の方々と連携し、教育活動全体を通して基礎的なスキル、思考力・判断力・表現力、人間関係形成力、社会的実践力などの力を意図的・計画的に育むことが必要である。

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	
		評価		評価	コメント
		取組指標	成果指標		
確かな学力の向上	1時間の学習展開の中で全員が自分の考えを表現する場面を作り、全員参加の授業をつくる。	4	3	3	意欲の高さが数字にも出ているというのは凄いいこと。学習の場に「考えを表現する」が組み込まれたことで、受け身ではない学習が出来ているのではないかと。表現が苦手な子どもも取り残されることなく、授業に主体的に「参加している」と実感できる工夫をされている。自然に「言語能力」「情報活用能力」「協働問題解決能力」が身につくよう、戦略的な授業が行われている。
	どの子どももすんで解決したくなる課題づくりやグループ学習の方法を工夫し、考えを広げたり深めたりできる授業をつくる。	4	3	3	考えを広げたり深めたりすることは、家庭での環境やフォローも大きく関係する。家で話術にすること(言語化)により理解も深まり、宿題や学習内容への関心・動かしも意欲に繋がる。家での本やインターネット等の資源の有無も関係するかもしれない。授業外での先生と生徒の関わりの中で、クイズを出し合うことがあり、そこに自然と算数や国語の要素が入っている。まさに「解決したくなる課題作り」を授業外でも実施してくれていて、算数に興味がない子が、数学的なクイズを楽しんで解こうとする姿が見られた。
豊かな心の育成	「挨拶と返事」が確実に身につくように、学年・学級で工夫して取り組む。児童会での取組を強化し、児童が自分から挨拶できるよう意識の向上を図る。	4	3	3	三小の子ども達に学校外で会うと、知っている人にはきちんと挨拶してくれている。「いつもありがとうございます」と自分から言いに来てくれるということもあった。また、こちらからの挨拶に対しては返してくれる子が増えてきたという実感もある。防犯の観点から知らない人には話しかけないという風潮もあるのかもしれない。挨拶から人と知り合う良い体験が乏しい今、誰にでも挨拶は難しいかもしれないが、今後も継続してほしい。
	どの子ども学級に居場所があるように、いじめ未然防止の取組を学年毎に工夫して行う。	4	4	4	「きらり」に対して子ども達が特別視されていない様子がないのは素晴らしい。相談室に対してや、大人に相談することへの敷居が高くないことも大事。困った時に、困ったこととなる前に、相談したり助けを求められたりできる環境や雰囲気作りが必要。学校の中で先生同士での連携に加え、地域や保護者も連携していけるとよい。
健やかな体の育成	体力向上旬間の取組では、個人や学級毎に目標数値を掲げて取り組む。	3	3	3	日常的な体力向上については、学校外の取り組みが大切。安心して外遊びができる場を地域に作っていくなど、保護者や地域から要請していくことも必要。
	「早寝早起き朝ごはん」点検の結果等を使って、児童と保護者に対して生活習慣への啓発を工夫して行う。	3	3	3	点検カードなどを継続していくことが大事。各家庭の生活スタイルや考え方もあるが、生活習慣を振り返るきっかけとなる啓発活動を今後も続けてください。家族との会話時間や、夜ご飯の状況(時間や、誰と食べるか)等も聞いてみると、子ども達の生活の実態把握になるとともに、結果的に「早寝早起き朝ごはん」に繋がる要因や阻害要因も見えてくるかもしれない。
本校の特色①	縦割り活動、ボランティア活動、異学年交流では目的を明示し事前指導を丁寧に行い、成功体験を積み重ねる。	3	3	3	委員会活動など、楽しくできている様子が見られる。生徒数が少ないこともあり、学年の垣根が少なく開けている印象がある。他学年の話を子どもから聞くことも多い。六年生に三小代表としての役割や自覚を持たせるような先生達の声掛けや雰囲気作りがある。それによって上級生へのリスペクトが生まれている。
	学年ごとに地域や保護者等との参画型授業・出前授業等を計画的に工夫して行う。	4	4	4	とても素晴らしいです。これまでの取り組みを維持していくとともに、これまで培ってきた人との繋がりを新たな出前授業が開催されるなど、継続が実になっている。三小の自慢できる部分として、発信していけるといい。三小だけではなく近隣の小中学校単位で取り組んでいきたい。
本校の特色②	計画的に俳句作品の掲示や発信を行い、コンクールの応募には全児童が取り組む。	4	3	3	俳句の面白さやコツを子どもに伝えていく工夫があるといい。実体験の中で気持ちが動いたことを表現していくこと、1つの物事に対して表現する言葉が多様にあること、言葉遊びのような楽しい一面もあること、等々。先生や保護者や周りの大人が参加して楽しさを伝えられるといい。
	読書への興味を高める取り組みを、学期毎・学年毎に計画して実施する。	4	4	4	読書好きが多く素晴らしい。本の偏りについては、友達からの勧めや紹介は効果大きい。自分の好きな本を相手に伝えるというアウトプットにもなる。自分の好きな物や興味のあるものから読書に繋げていく。好きな物や興味のあることを手作りの本にするというのもいいかもしれない。